

発酵玄米 膵臓がん予防か

マウス類実験で効果

名古屋市立大准教授が発表

玄米と米ぬかをこうじ菌で発酵させた食品(FBR A)に、マウス類の膵臓がんを予防する効果のあることが、名古屋市立天大学院医学研究科の久野寿也准教授(48)の実験で明らかになった。久野准教授は「人間でも同様の効果が得られる可

能性がある」と話している。実験はFBR Aに大豆などを加えた食品を販売している玄米酵素(札幌、鹿内正孝社長)が委託し、昨年実施した。ギリシャで発行されている国際的な学術論文誌「オンコロジー・レター」電子版に掲載された。

膵臓がんを引き起こす発がん性物質を投与したマウス類に、通常のえさと、FBR Aを混ぜたえさを食べさせ、腫瘍ががん化していく進行具合に差があるか調べた。実験の結果、通常のえさを食べたマウスのうち、がんの前段階に当たる腫瘍がみられたのが41%、がんがあったのが56%、異常がなかったのは3%だった。一方、FBR Aを10%混ぜた

えさを与えたマウスのうち、腫瘍がみられたのが66%、がんがみられたのは24%、異常なしが10%だった。久野准教授らは「FBR Aは、がんを進行させる活性酸素の働きを抑えている可能性がある」と分析しており、今後、その仕組みを解明していく考えだ。人間

の膵臓がんは初期の発見が難しいため他のがんよりも生存率が低く、予防が重視されている。